

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

# 無書燈

2004年9月  
No.122



大谷大学同窓会

# 大谷大学と私

## 「声明と音楽」

岩田宗一先生にインタビュー



本学の短期大学部幼児教育科において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました岩田宗一先生にお話を伺いました。永らく研究されている「声明」と「音楽」について詳しくお話を聞きすることができました。

### 「声明」と「音楽」について研究された動機をお聞かせください。

私が声明の研究を手がけたのは、大谷大学に着任する前からです。専門的に勉強しておりましたので、「声明」と「音楽」が役に立つのではないかという気持ちでまいりました。中学教諭時代、後に天台宗大原の声明大家とされる天納傳中先生をはじめ、声明に深い理解のある方とお会いする機会がありました。「声明」が「日本音楽」にとって重

要な出発点にあるといわれた時代でありました。中学校に着任したころに文部省の指導要領が変わり、日本音楽を指導することとなり、思い込んで独学ではじめました。それが声明の研究を手がけるきっかけです。それから、智積院において、日本で生まれた声明の「よみもの声明」の重要な法要儀式があると聞いて、それをレコードに録音しようと出かけました。「よみもの声明」は「講式」ともいいます。そこで国語学者の金田一春彦さんとお会いしました。そのご縁で、東洋音楽学会の研究誌に論文を掲載させていただきもしました。このようにして仏教音楽の研究ということを、はつきり打ち出すことができました。

その後、滝本裕造先生が、私が声明を研究していることを聞きつけて大谷大学の幼児教育科に來ないかといわれまして、ご縁をいたいただきました。大学に來てからは、幼児教育科の学生たちに音楽を教えるというところが私の仕事としては第一義ですから、声明の研究としての歩みは遅かったですと思います。

### 『大谷派声明について』を発表された

たのを契機として、一斉に各宗派の声明の研究が進んだとお聞きしましたが、そのお話を聞かせください。研究のきっかけは、大谷大学には赤松俊秀先生がおられました。その赤松先生の論文「吉崎時代以前における正信偈・和讃の諷誦」に刺激を受けました。その論文に蓮如さんの時代に復興された、あるいはもつと厳密にいえば、その父親の存如上人の時に復興されたものの中に真言宗の釈迦堂の釈迦念仏が取り入れられているという記述があるのです。実際、釈迦堂では今も釈迦念仏を行っているのです。それを聞きに行つて録音しました。結局は九重でやっているのですが、よく聞いてみたら、初重、二重、三重が最高で、そこからは二重に下がることを四重というのです。そして、五重は初重に下がっていくというようにジグザグでいくからでもできる。そういう九重です。それから釈迦堂のことを調べたら、すぐ智積院の末寺ということがわかりました。その智積院がやはり九重でやっているのです。その後、いろんな所を回りましたら、同じ新義真言の長谷寺が十一重でした。十一重といったら観音さんが本尊ですから、それにまつわつて三十三唱する。つまり、「南無釈迦牟尼仏」という旋律がついていまして、それを三回唱えて初重なのです。それから二重、三重へと上がっていく。各重で三回ずつ唱えていくので十一重と言つたら、三十三唱です。観音信仰と一致するわけです。次に高野山はどうか

#### 〔略歴〕

昭和 八年 京都府に生まれる  
昭和三十四年 京都市立音楽短期大学  
（現・京都市立芸術大学）卒業  
昭和 四十年 佛教大学卒業  
平成 十一年 大谷大学退職  
現在 大谷大学名誉教授  
東洋音楽学会会員  
日本音楽学会会員  
楽劇学会会員

#### 〔著書・論文〕

『声明は音楽のふるさと』（平成十五年・法蔵館）  
『声明の研究』（平成十一年・法蔵館）  
『声明・儀礼資料年表』（平成十一年・法蔵館・編著）  
他著書・論文多数

と言え、三重なのです。三重どまりです。実は存如・蓮如上人のころから声明といえ、真言宗では京都の千本釈迦堂、天台宗では大原と言われているのです。

私と滝本さんとで、『大谷派声明について』を発表しました。これが契機で各宗派の声明研究が進んだと思つています。大谷派全体がどういう構成で儀式を持っているかという内容です。つまり、初重、二重、三重という重構造というものが全体を支配して、儀式が成り立っているという事です。たとえば、『正信偈』は三重とは言わなければ、その中の「善導独明」から二重構造というふうにながっていきまます。一方向性をもつた上昇系の声明だということです。

## 音楽法要と仏教讃歌についてお聞かせください。

私の考えでは、法要で使われるものは「仏教儀式音楽」、それ以外のものは「仏教的音楽」と区別しているのです。たとえばオペラからオラトリオまでたくさんあるのです。「仏教音楽」というのは、狭い意味では「仏教儀式音楽」です。もちろん、三帰依文からはじまって、和讃も「一」のはなのなかよりは」と歌っていきますけど、そういう一貫したものが「仏教音楽」です。ただ、黛敏郎の「涅槃」とか「釈迦」のようにオーケストラレーションされているものもあります。仏教讃歌というのは仏教的音楽と言っているんです。仏教讃歌の中には仏教儀式音楽も入っています。たとえば、「君はいま」という葬儀式で歌う歌があります。これも葬式で歌ったら立派な仏教儀式音楽です。

## 集大成として『声明の研究』を出版されましたが、その前後のお話を聞かせください。

数年前、『声明の研究』という本を法蔵館から出版させていただきました。それまでに研究したことは、大体そこに収めさせてもらいました。その前に『仏教音楽辞典』は四人の名前で出して、その時に、手引きのつもりで小さな声明辞典を作ったのです。それには、執筆者のみならず、各宗派の権威のある方に執筆を依頼したのです。その後、私と天納

傳中さん、播磨照浩さん、飛鳥寛亮さんの四人で『仏教音楽辞典』を刊行しました。

声明辞典の方に力を入れていた時に、新潟県糸魚川の井伊各量さんや清水脩さん、浩さんなど錚々たる方々が収集された、明治以降の五線譜で作曲した「仏教讃歌」がダンボール箱に詰めて法蔵館の床に置いてあったのです。「これはこれで出版したらいいのですけど」と言っていたのですがね。そして、仏教音楽辞典の四人のうちの一人、富山県高岡の飛鳥寛亮さんが、どういふきつかけかそれを知って、「こんな所に置いてはいかん。せめて紹介せねばならん」と言って、紹介項目を書かれたのです。その書かれたものと合体して『声明辞典』じゃなく『仏教音楽辞典』ができました。

## 幼児教育科でのお話を聞かせください。

仏教音楽のことも一生懸命しましたが、それにも増して、幼児教育科に勤めていることが重要な意味を持っているというところはよく分かっていました。幼児教育科では、最初、滝本さんと私と田中紘二さんの三人で、どういうふうな音楽教育を運営していくかということを考えてわけです。幼児教育科の学生はピアノの試験を受けずに入学しますから、それを念頭においてピアノの指導をしました。写譜を重要視するという考えがありました。私も写譜というのがどんなに大事かということとは分

かっておりましたが、学生にとっては非常に負担になったようです。というのは、楽譜などは書店に行けばすぐ手に入りますから、学生がどこまで写譜の意義を理解してくれているのかと考えると少し心残りです。

## 幼児教育科で学んだ学生さんについて感想はいかがですか。

最初のころは、はっきり言って学生と喧嘩腰でしたよ。学生の中に猛者がたくさんおりましてね。すごかったですね。本当によくやりあっていました。私たちも若かったのですよね。学生に「もう一回言うてみようね。学生に「もう一回言うてみようね」と言うとき、学生の方も「ハイッ、言います」なんて応えたりしてね。けれども、懐かしいです。そういうことをした学生みんなが保育の第

一線で大活躍していますからね。あれくらいは迫力がないとあかんなあと思います。それから斉藤寿始子先生がおられました。挨拶がものすごく厳しかったんです。何人もの学生が泣いていました。しかし、そのことは大変重要なことです。

## 現今の学生に何か望まれることはありますか？

今も研究室に行つて会つてきたのですが、みんないい学生ばかりです。わたしが何者かも分からないのに「こんにちは」と言ってくれますから。多分一年生だと思えますが、「最近の若い者は」と批判的に言いますけど、決してそうではないということです。立派な実践者に育つてほしいと思います。

## ありがとうございます 岩田先生

大谷大学短期大学部幼児教育科の二期生として入学した私はピアノと共に青春があり、その頃の岩田先生の優しい姿が印象に残っています。その岩田先生に二十一年ぶりに再会したので、当時、夫が室長をしていた金沢教育学研究室的特別講義にご出講され、そ

## 平野 安子（旧姓 山本）

こでお会いしました。先生が仏教と声明のご研究をされていることを私はその時初めて知り、驚きと畏敬の念をもちました。そのような縁があり、夫の偈が会の時、平野修作詞の曲などを深い響きの声で歌ってくださいました。哀しみの中にいる私にとって、心にしみる歌声でした。お忙しい中をお越しいただきましたこと、本当にありがたく思っています。その後金沢真宗学院の特別講義を学院生であった私は聴講させていただきました。先生との縁を嬉しく思っています。

## 岩田先生へのコメント



ひらの やすこ  
S44.3短期大学部  
幼児教育科卒業



# 本部報告



## 二〇〇四年度 同窓会総会開催（報告）

去る五月十二日（水）午後一時三十分より、本学博綜館第一会議室において、本年度総会が開催されました。

議長に飛騨支部長の小原正憲氏を選出し、各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

一、二〇〇三年度事業報告および収支決算報告（下記「収支決算書」参照）



総会の様子

一、役員選出の件

▼ 学長の交代に伴い、会則第十条第一項により顧問を推挙、また部長の交代に伴う理事の欠員補充を会則により行い、次のとおり決定いたしました。なお、理事の任期は、会則第十三条第二項により前任者の残任期間である一年間となります。

顧問 木村 宣彰  
顧問 石橋 義秀・小谷信千代

一、同窓会活動企画推進委員会に関する件

同窓会活動企画推進委員会は、昨年七月に第一回の全体会が開催され、その後二部会制により運営されました。部会については、第一部会が五回、第二部会が七回開催されました。総会では、第一部会の伊知地魏照部会長（常務理事）から部会の活動

報告がなされた後、「第九回ホームカミングデー開催要項」が提案され、承認されました。「ホームカミングデー」については、今回より第一部（十三時～十六時）は学内において「恩師、旧友との再会の場」として、第二部（十七時三十分～十九時）は、市内ホテルにおいて「会費制の懇親の場」としてそれぞれ設定し、第一部、第二部を明確に分離して開催されます。続いて、第二部会の二階堂

行部会長（常務理事）から部会の活動報告がなされた後、学生支援の一環としての「学内食堂メニューへの補助」ならびに「IT化の活用」について提案され、承認されました。

一、二〇〇四年度事業計画および収支予算（左記「収支予算書」参照）

2004年度 大谷大学同窓会本部収支予算書

| 【収入の部】    |            | (単位:円) |
|-----------|------------|--------|
| 科目        | 予算額        |        |
| 1 前年度繰越金  | 8,743,829  |        |
| 2 会費      | 40,050,000 |        |
| 会費(1)     | 2,850,000  |        |
| 会費(2)     | 37,200,000 |        |
| 3 入会金     | 6,200,000  |        |
| 4 出版物等売上金 | 150,000    |        |
| 5 雑収入     | 236,171    |        |
| 合計        | 55,380,000 |        |

| 【支出の部】          |            | (単位:円) |
|-----------------|------------|--------|
| 科目              | 予算額        |        |
| 1 事業費           | 14,030,000 |        |
| 本部事業費           | 2,000,000  |        |
| 支部事業助成費         | 5,530,000  |        |
| 同期会・OB会等開催助成費   | 800,000    |        |
| 学生会助成費          | 500,000    |        |
| 新入会員歓迎費         | 5,200,000  |        |
| 2 刊行費           | 6,792,000  |        |
| 無償増刊行費          | 5,270,000  |        |
| 印刷製本費           | 1,522,000  |        |
| 3 事務費           | 7,094,000  |        |
| 本部事務局費          | 120,000    |        |
| 手当              | 340,000    |        |
| 通信費             | 6,634,000  |        |
| 4 旅費            | 8,208,000  |        |
| 5 会議費           | 1,835,000  |        |
| 6 委託費           | 3,500,000  |        |
| 7 雑費            | 560,000    |        |
| 8 同窓会基金への繰入支出   | 8,050,000  |        |
| 9 出版事業積立金への繰入支出 | 1,000,000  |        |
| 10 同窓会活動活性化準備金  | 2,500,000  |        |
| 11 予備費          | 1,000,000  |        |
| 12 次年度繰越金       | 811,000    |        |
| 合計              | 55,380,000 |        |

2003年度 大谷大学同窓会本部収支決算書

| 【収入の部】    |            | (単位:円) |
|-----------|------------|--------|
| 科目        | 決算額        |        |
| 1 前年度繰越金  | 4,879,937  |        |
| 2 会費      | 35,967,000 |        |
| 会費(1)     | 3,117,000  |        |
| 会費(2)     | 32,850,000 |        |
| 3 入会金     | 5,475,000  |        |
| 4 出版物等売上金 | 122,700    |        |
| 5 雑収入     | 68,451     |        |
| 合計        | 46,513,088 |        |

| 【支出の部】           |            | (単位:円) |
|------------------|------------|--------|
| 科目               | 決算額        |        |
| 1 事業費            | 12,702,575 |        |
| 本部事業費            | 1,339,775  |        |
| 支部事業助成費          | 5,111,200  |        |
| 同期会・OB会等開催助成費    | 660,000    |        |
| 学生会助成費           | 500,000    |        |
| 新入会員歓迎費          | 5,091,600  |        |
| 2 募金活動費          | 0          |        |
| 3 刊行費            | 5,186,055  |        |
| 無償増刊行費           | 4,563,090  |        |
| 名簿刊行費            | 0          |        |
| 印刷製本費            | 622,965    |        |
| 4 事務費            | 6,120,468  |        |
| 本部事務局費           | 100,240    |        |
| 手当               | 290,000    |        |
| 通信費              | 5,730,228  |        |
| 5 旅費             | 7,387,200  |        |
| 6 会議費            | 1,347,019  |        |
| 7 委託費            | 2,401,350  |        |
| 8 雑費             | 259,455    |        |
| 9 同窓会基金への繰入支出    | 1,364,493  |        |
| 10 出版事業積立金への繰入支出 | 1,000,644  |        |
| 11 予備費           | 0          |        |
| 12 次年度繰越金        | 8,743,829  |        |
| 合計               | 46,513,088 |        |

## 第九回 同窓会ホームカミングデー案内

同窓会では、例年学園祭「紫明祭」の開催期間中の土曜日に「ホームカミングデー」を開催しておりますが、本年は新たに「スタンブラリー」を企画するなど内容を一新し、次のとおり開催します。

また、「ホームカミングデー」をゼミ・クラス同期会、学寮・クラブ等の同窓会の集合場所として位置づけていただき、この機会にゼミ・クラス同期会等を開催されてはいかががでしょうか。お仲間をお誘い合わせのうえ、母校大谷大学にお越しください。

詳細は、本会報に同封しております案内状をご覧ください。

開催日 十一月十三日(土)

### 〔第一部〕

谷大再発見【会費無料】

・ 恩師、旧友との再会

(十三時～十六時)

・ スタンブラリー

・ 学園祭バザー参加

(十三時～十五時)

・ お楽しみ抽選会

(十五時三十分～)

### 〔第二部〕

懇親会【会費 六千円】

〔於 京都ロイヤルホテル〕

・ 立食パーティー

(十七時三十分～十九時)

## 同窓会ホームページについて

同窓会では、2001年1月より同窓会ホームページ「無盡燈」を公開しています。

これまで毎月1日に内容を更新し、アクセス件数は20,000件を超えています。

メニューは、「ご挨拶」「真宗総合学術センター 響流館情報」「同窓会情報」「支部情報」「セミナー情報」「無盡燈ギャラリー」「リンク集」などです。また、同窓会報「無盡燈」もホームページでご覧いただくことができます。

ぜひ一度、同窓会ホームページ「無盡燈」にアクセスしてください。

ホームページアドレス

<http://www.mujiinto-otari.org/>



## 「同窓会うどん」の販売開始

去る七月一日より学内食堂において「同窓会うどん」の販売が始まりました。

「同窓会うどん・そば」は、従来のかけうどん・そばの名称を変更したのですが、一食につき五十円を補助し、一食六十円で提供するものです。これによりうどん・そばメニューは「同窓会うどん」となりますが、同窓会うどんに、きつね・天ぷらなどをトッピングすることによって、従来のきつねうどん・天ぷらうどん、として提供されます。

「学内食堂メニューへの補助」については、先般開催された同窓会総会において、在学生への支援の一環として同窓会活動企画推進委員会第二部会より提案され、承認されたもので、同窓会本部予算の「同窓会活動活性化準備金」より支出されます。

## 災害お見舞い申しあげます

◎去る七月十三日、十四日、十八日に発生した集中豪雨により被害を被られました新潟県、福島県、福井県の関係各位に対しまして、衷心よりお見舞い申し上げます。

◎台風十五号、十六号、十八号により被害を被られました関係各位に対しまして、衷心よりお見舞い申し上げます。

## 同窓会報『無盡燈』および同窓会ホームページについて ご意見をお寄せください。

本号より同窓会員の皆さんに、同窓会報『無盡燈』および同窓会ホームページ「無盡燈」に関するご意見・ご感想をお寄せいただくためのハガキを同封しております。

また、ご夫婦、親子など複数の同窓会の方が同居しておられ、複数の会報の送付が必要でない方は、お知らせください。

今後の同窓会報およびホームページをよりよいものにするために、ぜひご意見・ご感想をお寄せください。

# 世界遺産アンコール遺跡・ポロブドゥール遺跡研修の旅

## ～ 仏教文化とヒンドゥー文化の華～

会員相互の親睦・交流をはかり、校友の輪を一層広げていただくため、本企画海外研修の旅を実施いたします。  
このたび、第9弾として“仏教文化とヒンドゥー文化の華”、「アンコール遺跡・ポロブドゥール遺跡研修の旅」を企画いたしました。団長を、本学教授の吉元 信行先生（仏教学）にお願いし、現地でご指導いただく予定になっています。  
会員をはじめ有縁の方々のご参加をお待ちいたしておりますので、お誘い合わせのうえご参加くださいますようお願いいたします。

### 世界遺産アンコール遺跡・ポロブドゥール遺跡研修の旅

| 月 日            | 訪問都市                       | 交通機関                           | 現地時間  | スケジュール   |
|----------------|----------------------------|--------------------------------|---|--|
| 1 1月6日<br>(木)  | 大阪<br>バンコク<br>シェムリアプ       | TG623<br>PG942<br>専用車          | 09:45<br>11:45<br>15:35<br>18:00<br>19:05       | 関西国際空港、国際線出発ロビー集合<br>タイ国際航空にてバンコクへ<br>着後、乗り継ぎ手続き<br>乗り継ぎ便にてシェムリアプへ<br>着後、ホテルへご案内<br>【シェムリアプ 泊】             |
| 2 1月7日<br>(金)  | シェムリアプ                     | 専用車                            | 終日<br>夕刻  | 世界三大遺跡の一つであるアンコール・ワット、<br>アンコール・トム見学<br>プノンペンよりアンコール・ワットの夕景見学<br>アプサラダンス鑑賞<br>【シェムリアプ 泊】                   |
| 3 1月8日<br>(土)  | シェムリアプ<br>バンコク             | 専用車<br>船<br>PG943<br>専用車       | 午前<br>午後<br>夕刻<br>19:40<br>20:40                | 東洋のモナリザと呼ばれる彫像「バンテアイ・スレイ」見学<br>クメール伝統織物研究所見学<br>トンレサップ湖クルーズ<br>空港へ<br>空路、バンコクへ<br>着後、ホテルへご案内<br>【バンコク 泊】   |
| 4 1月9日<br>(日)  | バンコク                       | 専用車                            | 終日  | バンコク市内観光<br>暹の寺院、王宮・エメラルド寺院、ワット・ポー寺院 見学<br>【バンコク 泊】  |
| 5 1月10日<br>(月) | バンコク<br>ジャカルタ<br>ジョグ・ジャカルタ | 専用車<br>TG433<br>GA208<br>専用車   | 早朝<br>07:55<br>11:25<br>14:50<br>15:50<br>夜     | 空港へ<br>空路、インドネシアのジャカルタへ<br>着後、乗り継ぎ手続き<br>国内便にてジョグ・ジャカルタへ<br>着後、ホテルへご案内<br>伝統的なワヤンクリ（影絵）鑑賞<br>【ジョグ・ジャカルタ 泊】 |
| 6 1月11日<br>(火) | ジョグ・ジャカルタ                  | 専用車                            | 午前<br>午後  | 世界遺産のポロブドゥール遺跡見学<br>ブランパナン観光<br>【ジョグ・ジャカルタ 泊】  |
| 7 1月12日<br>(水) | ジョグ・ジャカルタ<br>ジャカルタ<br>バンコク | 専用車<br>GA207<br>TG414<br>TG622 | 午前<br>13:00<br>14:00<br>17:40<br>22:45<br>23:59 | ジョグ・ジャカルタ市内観光、王宮、水の王宮見学後、空港へ<br>国内便にてジャカルタへ<br>ジャカルタ着<br>ジャカルタよりバンコクへ<br>着後、乗り継ぎ手続き<br>一路、帰国の途へ<br>【機中 泊】  |
| 8 1月13日<br>(木) | 大阪                         |                                | 07:30   | 関西国際空港着<br>お疲れ様でした。  |

\* 現行のスケジュールです。現地の交通事情により日程が変更になる事もございますので、あらかじめご了承願います。  
\* ご利用予定ホテル：シェムリアプ：ソフィテルロイヤルアンコール バンコク：パトゥムワンプリンス  
ジョグジャカルタ：ハイアットリージェンシー

**旅行期間**  
明年一月六日(木)～一月十三日(木)

**募集人員**  
三十五名(最少催行人員二十五名)

**旅行費用**  
二七四、〇〇〇円

**申込締切日**  
十一月十五日(月)

**参加資格**  
同窓会員とそのご家族等  
在学生のご父母兄弟姉とご家族等

**申込方法**  
旅行会社へパンフレットをご請求の  
うえ、お申し込みください。定員を  
超えた場合は、申し込み順とさせて  
いただきます。

お問い合わせ先・取扱旅行代理店  
**株モントラベル**  
〒550 0013  
大阪市西区新町一八一  
諏訪ビル

06 6531 1344  
(担当 四ツ井/渡辺)



**支部長・事務局の交代・ご紹介**  
ありがとうございます  
よろしくお願ひします

**秋田支部**  
支部長 山崎 伝成  
(前)支部長 佐々木令章

**金沢支部**  
支部長 木越 渉

**大聖寺支部**  
支部長 但馬 信勝  
(前)支部長 富樫 雅好

**丹但支部**  
支部長 原田 祐章  
(前)支部長 中島 正英

**福井支部**  
事務局 日下部 求  
(前)事務局 北島 恬

母校の動き (2004年4月~2004年8月)

- 4/1(木)【学年始・宗祖誕生日】  
4/3(土)【入学式】  
4/6(火)~24(土)  
【博物館2004年度春季企画展】  
「大谷大学のあゆみ 清沢満之と真宗学」  
4/9(金)【若葉祭】  
4/23(金)【仏教学会新入会員歓迎講演会】  
「インドのおどろき」 小谷 信千代 本学教授  
4/28(水)【宗祖御命日勤行・講話】  
「戦国時代と本願寺」 草野 顕之 本学教授  
5/12(水)【同窓会総会】  
【短期大学部文化学科新入生歓迎講演会】  
「『私』という樹にどんな花が咲くのか - 日本語表現を学ぶこと -」  
荒井 とみよ 本学非常勤講師  
5/20(木)【史学科新入生歓迎講演会】  
「『らしさ』の歴史学」 京樂 真帆子 滋賀県立大学助教授  
5/25(火)【大谷学会春季公開講演会】  
「樹心仏地 - 植遇と自覚 -」 神戸 和麿 本学教授  
「文化の政治性 - 天皇の中世文化をめぐる -」  
脇田 晴子 城西国際大学大学院教授  
5/25(火)~8/2(月)  
【博物館2004年度夏季企画展】  
「仏教の歴史とアジアの文化」  
5/28(金)【宗祖御命日勤行・講話】  
「『御文』管見」 沙加戸 弘 本学教授  
5/29(土)【第49回国際東方学会議】  
【パーリ学仏教文化学会第18回学術大会】  
6/1(火)【宗祖誕生会】  
「越後から関東へ - 親鸞聖人42歳の決断 -」  
今井 雅晴 筑波大学大学院教授  
【国際文化学科講演会】  
「異文化との出会いで考えたこと - アフリカやアメリカでの体験を中心に」  
古川 哲史 元オハイオ大学講師  
6/9(水)【「人権問題を共に考えよう」全学学習会】  
「部落問題の今 - 両側からこえる -」  
住田 一郎 西成労働福祉センター  
6/19(土)【教育後援会四国地区父母兄弟懇談会】  
6/26(土)【オープンキャンパス】  
6/28(月)【宗祖御命日勤行・講話】  
「人生の物語 九条武子と関東大震災」 佐賀枝 夏文 本学教授  
6/29(火)~8/2(月)  
【博物館特別陳列】  
「新指定重要文化財 湯浅景基寄進状」  
7/1(木)【「同窓会うどん」販売開始】  
7/9(金)~10(土)  
【教育後援会東海地区父母兄弟懇談会】  
7/10(土)【同窓会東海地区支部長会】  
7/16(金)~17(土)  
【教育後援会北海道地区父母兄弟懇談会】  
7/17(土)【同窓会北海道地区支部長会】  
7/16(金)~30(金)  
【安居開講】  
7/21(水)~23(金)  
【晓天講座】  
21(水)「仏教と世俗との交流 - 石に刻まれた經典 -」 大内 文雄 本学教授  
22(木)「親鸞聖人に教えられていること」 廣瀬 惺 同朋大学教授  
23(金)「念仏の諸相」 福島 光哉 本学名誉教授  
7/28(水)【宗祖御命日勤行】  
8/1(日)~2(月)  
【オープンキャンパス in Kyoto】  
8/2(月)~9/18(土)  
【夏期休暇】

母校だより

小川一乗先生、河内昭圓先生に  
名誉教授の称号おくられる

大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が、小川一乗(仏教学)、河内昭圓(中国文学)の両先生におくられました。授与式は河内先生が四月一日、小川先生が五月二十七日に学長室において行われました。(総務課)



授与式の様子



授与式の様子

人事

部局長の交代

学監兼文学部長 宮下 晴輝

(前学監兼文学部長 延塚 知道)

大学院文学研究科長 大内 文雄

(前大学院文学研究科長 池上 哲司)

短期大学部長 築山 修道

(前短期大学部長 小谷信千代)

学生部長 一乗 真

(前学生部長 禿 憲仁)

真宗総合学術センター長 沙加戸 弘

(前真宗総合学術センター長 木場 明志)

入学センター長 高井 康弘

(前入学センター長 寺林 脩)

二〇〇四年四月一日付

定年退職

〔教育職員〕

荒井とみよ(教授・短期大学部)

小川一乗(教授・文学部)

河内昭圓(教授・文学部)

崎野隆(教授・文学部)

大山喬平(特別任用教授・文学部)

谷泰(特別任用教授・文学部)

二〇〇四年三月三十一日付

契約期間満了による退職

〔任期制助手〕

鈴木 未来・高木 淳善・林 奈美子

藤原 崇人・箕浦 暁雄・山内 清郎  
吉田 綾・輪田 直子

〔事務系嘱託〕

一本 絢子・大浦 優子・小笠原洋美  
片岡 敬子・河野 真紀・喜多 孝子  
高畑 知子・小山 絵里・狭山 光惠  
島川 雅・下村 真理・高木 陽子  
高峯 章子・戸田喜美子・藤本 有香  
鈎 知美・松本 寛子・山崎 淳世  
頼富万里子

〔寮監〕

橋本 真・藤並 慈美

二〇〇四年三月三十一日付

依頼退職

〔教育職員〕

田中 裕喜(専任講師・短期大学部)

〔寮監〕

古谷 伸子

二〇〇四年三月三十一日付

新規採用・任命

〔教育職員〕

乾 源俊(教授・文学部)

田辺 繁治(教授・文学部)

徳岡 博巳(助教・短期大学部)

天野 勝重(専任講師・短期大学部)

采 晃(専任講師・文学部)

田村 晃徳(任期制講師・文学部)

藤堂 貴弘(任期制講師・文学部)

〔任期制助手〕

井黒 忍・伊村 大樹・岡本 敦之

小坂 美樹・清水 洋平・西本 祐攝

長谷川 慎・早川 智美・星津 香織

〔事務職員〕

田中 茂雄(書記・企画室)

秦 信明(書記補・教務部)

森脇 公久(書記・教務部)

山本 幸子(書記補・教育研究支援部)

〔事務系嘱託〕

浅井 恵・飯塚 恵子・大垣磨己子

柏 淳子・久保 法子・清水 美穂

武邑 知子・戸出 真美・中井 晴恵

永井 詞子・濱口 映子・平田亜津子

福岡 真美・堀田香代子・前田 真代

俣野 知子・松野 有希・松村 瑛子

山崎 悠子・山下 智美

〔図書館長〕

沙加戸 弘(兼任)

〔総合研究室主任〕

門脇 健

〔寮監〕

小笠原智秀・安崎洋美・照光河難子

二〇〇四年四月一日付

昇格

〔教授〕

泉 恵機・高井 康弘・福田 洋一

藤嶽 明信・ロバート F. ローズ

渡辺 啓真(以上 文学部)

佐藤 義寛・中川皓三郎

(以上 短期大学部)

〔助教〕

谷口奈青理・松川 節・村山 保史

山本 和彦・山本 貴子

(以上 文学部)

二〇〇四年四月一日付

重要文化財指定決定  
本学所蔵史料  
「湯浅景基寄進状」

本年六月八日(火)付けの官報において、本学所蔵の「湯浅景基寄進状」が国の重要文化財に指定されることが告示されました。

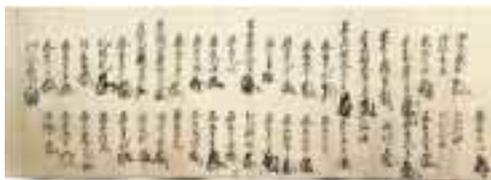
「湯浅景基寄進状」は、「施無畏寺寄進状」とも呼ばれ、和歌山県有田郡湯浅町に住した豪族の湯浅(藤原)景基が、明恵のために施無畏寺を建立し、寄進することを記した文書です。

明恵は、紀州に生まれ、華嚴宗の学僧として高名であり、高弁と号しました。九歳にして高雄神護寺に入り、文覚に師事。十六歳の時東大寺で受戒したのち高雄に帰り、梅尾に高山寺を開いています。

この文章には、寛喜三年四月十七日付けの明恵自署による外題証があり、これによれば、本堂供養の法会に明恵自らが参向したことが知られます。また、この年は明恵没年の前年にあたることから、晩年の筆跡を知るうえでも貴重な史料です。

今回の指定に伴い、大谷大学が所蔵する重要文化財は、宋拓「化度寺故僧 禪師舍利塔銘」、宋拓「信行 禪師興教碑」、「判比量論」断簡、「三教指帰注集」、「高野雜筆集」、

「春記」、「選択本願念仏集」と共に八点となりました。  
(博物館)



「湯浅景基寄進状」



博物館開館日程

特別展

「京の文化人とその遺産」

神田家の系譜と蔵書

会 期 十月十二日(火)

十一月二十八日(日)

休館日 日曜・月曜日、祝日

(十一月二十八日は除く)

十一月十九日

二十日

開館時間 十時～十七時

(入館は十六時三十分まで)

但し、金曜日のみ

十時～十九時

(入館は十八時三十分まで)

冬季企画展

「京都を学ぶ」

会 期 十二月七日(火)

十二月二十五日(土)

休館日 日曜・月曜日、祝日

開館時間 十時～十七時

(入館は十六時三十分まで)

ネットワークサービスの案内

現在、ネットワーク部門とエクス

テンション部門共同でe-learningを

利用した公開講座の実験配信の準備

が着々と進められています。

e-learningとは、インターネット

を利用しておこなう遠隔授業です。

テレビの放送講座のようですが、e-learningでは、いつでも、どこからでも、講師に質問をしたりしながら学習することができます。大学で講座を受講しているのと同じとまではいきませんが、講師とコミュニケーションがあるところは、大谷大学らしさを味わうことができることでしょう。

また、ネットワークを通じてのストリーミング試験配信を実施しており、昨年度の公開講座や報恩講の模様を同窓会ホームページ「無盡燈」(<http://www.muji-to-otani.org/>)からご覧いただくことができます。ご覧いただくには、Media player(7以上のバージョン)が必要です。(教育研究支援課)

響流館 1 DAY CARD の案内

真宗総合学術センター「響流館」の一日利用証は所定の手続きをしていただければ、その場で発行されますが、同窓会員の方には手続きを簡素化し、より気軽に響流館をご利用いただけるよう「響流館 1 DAY CARD」を発行いたしました。

「響流館 1 DAY CARD」は、校友センター(同窓会本部)で申し出ていただければその場で発行いたします。但し、ご利用は貸し出し日

当日限りです。

響流館をご利用の際は、校友センターへお越しください。

なお、図書館では、年間利用証を発行しています。継続的に図書館をご利用になる場合は、利用者登録をお勧めします。

(教育研究支援課)



響流館 1 DAY CARD

三名の方が

博士(文学)の学位を取得

次の三名の方が、学位論文を提出され、博士(文学)の学位を取得されました。

授与式は、本年三月十九日(金)に本学にて行われました。

◎藤井一二 金沢星稜大学大学院地域経済システム研究科教授

「東大寺開田図と古代村落の研究」

◎上場顕雄 大阪教区教化センター主任研究員

「近世真宗教団と地域社会」

◎田代俊孝 同朋大学大学院文学研究科教授

「親鸞浄土教における死の受容と超越」

(教務部)



授与式の様子

課程博士の学位を授与

本学では、博士後期課程修了者(既修了者含む)九名に、博士(文学)の学位を授与しました。学位取得者は小川直人(真宗学)、スザードミンゴス(真宗学)、UDITAGARUSNHA(仏教学)、ダッシュヨバラニ(仏教学)、藤枝 真(哲学)、北城伸子(仏教文化)、長谷川 慎(仏教文化)、津野泰子(仏教文化)、林 観潮(仏教文化)の各氏です。(教務部)



会議の様子

財団法人東方学会主催の第四十九回国際東方学者会議 (ICES) の関西支部が、五月二十九日(土)午前十時より、博覧館五階第一会議室を会場に開催されました。開会の辞の後、中国の沈 衛榮教授が「西藏文献中的和尚摩訶衍及其教法」、京都大学の平田昌司教授が「胡藍の獄・靖難の変と『洪武正韻』」と題して講演されました。

交歓昼食会は第二会議室で開かれ、木村宣彰学長が主催校を代表して歓迎の挨拶をしました。

関西支部の午後の参観行事は、例年では会場を移動して、京洛の観光をかねて寺社の宝物を拝観してきましたが、今回は本学博物館の夏季企画展「仏教の歴史とアジアの文化」を参観しました。

昼食会の席で、礪波 護教授が展観の文物について、寺本婉雅将来の北京版西藏大蔵経や、大谷瑩誠旧蔵の中国古印、神田喜一郎旧蔵の数々の名品の紹介をしました。

そして神田コレクションを寄贈された神田信夫前東方学会会長が、昨年末に逝去されたことに対し、哀悼の意が添えられました。

(教育研究支援課)

パリー学仏教文化学会

第十八回学術大会開催

パリー学仏教文化学会第十八回学術大会が、大谷大学を会場として、五月二十九日(土)に開催されました。

パリー学仏教文化学会は、パリー文化研究会を母体として発足しました。パリー文化研究会は、一九七七年四月に第一回の研究集会を開催し、十三回にわたって研究集会を重ね、



会場の様子

そして一九八六年に従来のパリー文化研究会を発展的に解消して、新たにパリー学仏教文化学会が設立されました。

一九八七年に第一回学術大会が開催されて以来、今大会で十八回目となりました。午前九時二十分から愛知学院大学名誉教授前田惠學会長の導師で三帰依文の唱和が行われ、つづいて研究発表が始まり、午後五時三十分まで、海外研究者を含む十二名の発表者が持ち時間三十分で研究発表を行いました。

研究発表は、パリー語仏教文献に対する考察を中心に、スリランカにおける仏教復興運動についてやミャンマーやバングラディッシュにおける上座部仏教の現状などについての発表もあり、それぞれについて活発な質疑応答がありました。当日の大会参加者は七十名を超え、盛況の内に閉会いたしました。

また、大谷大学図書館の協力により、大谷大学博物館において、パリー学に関わる出版物や写本を含む特別展覧も開催されました。

(清水 洋平)

宗祖誕生会

六月一日(火)午前十時から、講堂において、宗祖親鸞聖人御誕生会が厳修されました。真宗大谷派では、

四月一日に行われていたますが、大学では春休み中を避け、毎年六月一日に行っています。

本年度は、勤行に引き続き、筑波大学大学院教授 今井雅晴氏より「越後から関東へ―親鸞聖人四十二歳の決断―」と題して記念講演をいただきました。

親鸞聖人は四十二歳の時、流罪の地、越後より家族とともに関東へ向かったと伝えられています。そこに一体どのような目的があったのか、またなぜ関東に向かったのかは、さまざまな見解があります。

先生は、最新の研究成果を踏まえて、その決断の背景に当時の社会的状況や家族の存在があることをお話しくださいました。現存の史料を、当時の常識を踏まえて読むことの大切さを語り、また家族の視点から親鸞聖人の行動を明らかにしようとする先生のお話は、大谷大学で学ぶ私たちにとって、示唆に富むものでした。

(総務課)



今井 雅晴氏

『文藝春秋』『AERA』誌  
コラム執筆者紹介



『生活の中の仏教用語』(『文藝春秋』)

大谷大学は各種の雑誌に様々な広告を掲載しています。そのいずれもが、大学教育研究の一端を紹介するものとなっており、読者の方々から高い評価を得ています。

本年度も『文藝春秋』誌に毎月「生活の中の仏教用語」、「AERA」誌に隔週で「今という時間」というコラムを掲載中です。執筆担当の先生方は次のとおりです。

- 生活の中の仏教用語 (『文藝春秋』)
- 神戸 和磨 (真宗学)
- 浅見 直一郎 (東洋史)
- 木村 宣彰 (仏教学)
- 今という時間 (『AERA』)
- 一色 順心 (仏教学)
- 西田 潤一 (物理地質学)

- 浦山 あゆみ (中国語学)
- 三木 彰 円 (真宗学)
- 芦津 かおり (英米文学)
- 皇 紀夫 (臨床教育学)

大学出版物の紹介

大学が刊行した次の三点は学内書店で販売しています。

インドから、中国、日本に伝えられ、「大乘の至極」として親鸞の浄土真宗に開華した仏教伝播の道をわかりやすく述べた『仏教伝来』は一、〇〇〇円。

本学の初代学長・清沢満之の「精神主義」など代表的な文章十三編を集めた『我が信念 清沢満之のことば』は五〇〇円です。

清沢満之の「〇〇回忌記念として開催されたシンポジウムの筆録『清沢満之における哲学と宗教』も五〇〇円で販売しています。そのほか、『文藝春秋』誌の「生活の中の仏教用語」、「AERA」誌の「今という時間」の両コラムをまとめた『学苑余話Ⅶ』を本年三月に刊行しました。既刊号も含め、ご希望の方は企画室(TEL 〇七五-四一-一八一-一五)にご連絡ください。

(企画室)

二〇〇四年度春季  
課外活動結果

【団体成績】

サッカー部

関西学生サッカー連盟春季リーグ  
Ⅱ部Bブロック  
一勝七敗一分 十位 Ⅲ部降格

硬式野球部

京滋大学野球連盟春季リーグ戦  
Ⅱ部 十一勝一敗 優勝  
入れ替え戦 二勝一敗 Ⅰ部昇格

ソフトテニス部(男子)

関西学生ソフトテニス連盟  
春季リーグ戦 V部  
二勝一敗 二位

ソフトテニス部(女子)

関西学生ソフトテニス連盟  
春季リーグ戦 V部  
二勝一敗 二位

バレーボール部(男子)

関西学生バレーボール連盟  
春季リーグ戦 V部  
七勝 優勝 Ⅳ部昇格

バレーボール部(女子)

関西学生バレーボール連盟  
春季リーグ戦 VI部  
三勝三敗 三位

バドミントン部(男子)

関西学生バドミントン連盟  
春季リーグ戦 VI部Dブロック  
三勝一敗 二位

バドミントン部(女子)

関西学生バドミントン連盟  
春季リーグ戦 Ⅳ部Bブロック  
四勝一敗 二位

卓球部(男子)

関西学生卓球連盟春季リーグ戦  
Ⅳ部Aリーグ 二勝三敗 四位

卓球部(女子)

関西学生卓球連盟春季リーグ戦  
Ⅲ部Bリーグ 三勝一敗 二位

【個人成績】

硬式野球部

〈京滋大学野球連盟春季リーグ戦〉  
部最優秀選手賞  
部首位打者賞

部ベストナイン 外野手  
古村 陽佑

〈文学部人文情報学科第四学年〉  
部最優秀投手賞  
阿久根 仁

〈文学部文学科第三学年〉  
部打撃ベストテン 第三位  
部ベストナイン 外野手

勝山 弘徳  
〈文学部人文情報学科第三学年〉  
部打撃ベストテン 第五位  
部ベストナイン 捕手

奥野 正晴  
〈文部史学科第三学年〉  
部ベストナイン 投手

加藤 真也  
〈文学部社会科学科第二学年〉

加藤 真也  
〈文学部社会科学科第二学年〉

# 本学教員の出版物紹介

『大谷大学報』二〇〇四年春号・夏号より

- 『ゆるやかなカースト社会・中世日本』大山喬平 著
- 校倉書房刊(二〇〇三、四)四四八頁
- 『掘る・読む・あるく 本願寺と山科二千年』山科本願寺・寺内町研究会 編
- 草野顕之、大桑 斉 分担執筆
- 法蔵館刊(二〇〇三、四)二五六頁
- 『日本仏教34の鍵』草野顕之 分担執筆
- 春秋社刊(二〇〇三、五)三二二頁
- 『史料にみる近江八坂善敬寺史』同朋大学仏教研究所内八坂善敬寺史調査研究会 編 安藤 弥 分担執筆
- 彦根市八坂善敬寺 大照 敏刊(二〇〇三、十)一九頁
- 図録『大谷大学博物館開館記念特別展 古典籍の魅力 大谷大学の名品』草野顕之、平野寿則、宮崎健司、ロバート・F・ローズ、上林直子(学芸員)、頼 あき(嘱託学芸員) 分担執筆・翻訳 大谷大学博物館刊(二〇〇三、十)七〇頁
- 図録『企画展 よみがえる上宮寺の宝物』安藤 弥 分担執筆
- 安城市歴史博物館刊(二〇〇三、十一)七二頁
- 『週刊朝日百科 仏教を歩く連如』草野顕之 分担執筆
- 朝日新聞社刊(二〇〇三、十二)三二二頁
- 『日本史文献事典』大桑 斉 分担執筆
- 弘文堂刊(二〇〇三、十二)一六八八頁
- 『仏教とキリスト教の対話Ⅱ』箕浦恵了、宮下晴輝、マイケル・バイ 編
- 大河内了義、箕浦恵了、寺川俊昭、

- 長谷正當、安富信哉、宮下晴輝、木越 康 分担執筆
- 法蔵館刊(二〇〇三、十二)三二〇頁
- 『日本史文献事典』黒田日出男 他編
- 豊島 修、大桑 斉 分担執筆
- 弘文堂刊(二〇〇三、十二)一六八八頁
- 『しあわせに死んで 真実に生きよう』延塚知道 著 大谷大学同窓会埼玉支部刊(二〇〇三、十二)四三頁
- 『日本浄土教の形成と展開』浅井成海 編 小野蓮明 分担執筆
- 法蔵館刊(二〇〇四、一)五九四頁
- 『親鸞・信の構造』安富信哉 著
- 法蔵館刊(二〇〇四、二)二〇八頁
- 『大無量寿経講義―尊者阿難、座より起ち―』一栗 真 著
- 文栄堂刊(二〇〇四、二)二七七頁
- 『信の念仏者 親鸞』(日本の名僧シリーズ八) 草野顕之 編
- 古川弘文館刊(二〇〇四、二)二二四頁
- 『小川一乗 仏教思想論集』(全四巻)小川一乗 著
- 法蔵館刊(二〇〇四、三)平均三三〇頁
- 『仏教とキリスト教の対話Ⅲ』箕浦恵了、門脇 健 他編
- 寺川俊昭、大河内了義、箕浦恵了、ロバート・F・ローズ、宮下晴輝、安富信哉、門脇 健、木越 康、村山保史、吉田孝夫 分担執筆
- 法蔵館刊(二〇〇四、三)二九六頁
- 『戦国期本願寺教団史の研究』草野顕之 著
- 法蔵館刊(二〇〇四、三)四九六頁
- 『清沢満之―生涯と思想―』教学研究所 編
- 延塚知道、加来雄之、藤原正寿 共著
- 東本願寺出版部刊(二〇〇四、三)一六二頁
- 『Pannasajataka kept in the Orani University Library』吉元信行(編集代表) 荒牧典俊、清水洋平、長崎法潤、山本和彦 他編
- 大谷大学真宗総合研究所 パーリ貝葉研究班刊(二〇〇四、三)三一六頁
- 『人間に生まれて―清沢満之先生百周年記念―』延塚知道、今村仁司、兄玉暁洋 共著
- 崇信学舎刊(二〇〇四、四)一四一頁
- 『内藤湖南 東洋文化史』礪波 護 編
- 中央公論新社刊(二〇〇四、四)四七四頁
- 『近代真宗史論―高光大船の生涯と思想―』水島見一 著
- 法蔵館刊(二〇〇四、四)三〇五頁
- 『古典期アテナイ民衆の宗教』ジョン・D・マイケルソン 著
- 箕浦恵了 訳
- 法政大学出版局刊(二〇〇四、四)二二〇頁
- 『平安文学研究ハンドブック』田中 登、山本登朗 編
- 赤瀬知子 分担執筆
- 和泉書院刊(二〇〇四、五)二四八頁
- 『岩波講座 宗教5 言語と身体―聖なるもの場と媒体―』池上良正 他編
- 田辺繁治 分担執筆
- 岩波書店刊(二〇〇四、五)三三二頁
- 『Nung Liang nung dam :Tammam khong phnum chonua haeng lamnahai』(『黄衣と黒衣―北タイにおける農民指導者の物語』改訂版) 田辺繁治 著
- Chulalongkorn University Press 刊(二〇〇四、五)二二二頁
- 『読解「ユリシイズ」(下)』米本義孝 編注
- 研究社刊(二〇〇四、六)二四〇頁

## 教育振興資金(募金)について

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金を行っています。

二〇〇四年二月二十四日から八月十三日までの間にご寄付いただきました方々の芳名は、次のとおりです。

ご協力ありがとうございました。厚くお礼申しあげます。

件数 六十八件

寄付金総額 五、六二八、〇〇〇円

### 教育振興資金寄付者(敬称略)

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 秋山 誠一 | 粟津 寛之 | 伊賀 正道 |
| 五十棲敬起 | 一色 順心 | 伊藤 信之 |
| 岩下 信昭 | 岩田 彰峰 | 上野 晴義 |
| 大澤真一郎 | 大友 滋  | 小川 一乗 |
| 小原 正憲 | 笠井 英信 | 加瀬田雄司 |
| 片岡 耕治 | 勝見 和美 | 川口 純子 |
| 菊池 平夫 | 木越 涉  | 貫山 明  |
| 楠 淳   | 窪澤 真一 | 栗田まり子 |
| 栗原 宣如 | 河野 教明 | 小山 正行 |
| 酒井 了  | 酒井由美子 | 佐藤 亨  |
| 佐野 克巳 | 篠田 宏樹 | メ田 信  |
| 新保 宗之 | 相馬 温  | 竹部 俊恵 |
| 竹部ちか代 | 武山 秀隆 | 谷口 勇  |
| 辻 干城  | 中井貴美子 | 中野 房俊 |
| 名和 正典 | 羽賀 等  | 林 淳一  |
| 樋崎 成俊 | 広田 真一 | 藤井 高樹 |
| 藤澤 俊永 | 藤原 徳英 | 藤原 令二 |
| 二川 義峰 | 古市 治  | 松井 邦義 |
| 松元 彰信 | 丸田 善明 | 水澤 貴  |
| 齋 久子  | 森田 成美 | 屋鋪 博次 |
| 柳原 英晶 | 矢野 浩一 | 矢花 秀恵 |
| 古田 和良 | 頼尊 聖  |       |
- 真宗大谷派大垣教区教学研究室  
株式会社フラットエージェンシー  
教育後援会役員有志代表

## 2004年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では、学校教育修了後も学び続けたいという方々のために、さまざまな講座の展開を予定しております。ぜひ、この機会に再度本学の“学び”に触れてみませんか。  
以下の講座はすべて本学が会場です。(紫明講座1「大谷大学・龍谷大学連携講座」の会場については、お問い合わせください。)

### ●●●● 開放セミナー ●●●●

|      |                  |                                       |
|------|------------------|---------------------------------------|
| 1    | テーマ              | ビートルズサウンドの魅力にせまる -音楽における異文化・同文化発見-    |
|      | 担当講師             | 本学教授 米本 義孝                            |
|      | 開講日              | 10月21日・28日、11月4日・18日・25日、12月2日(いずれも木) |
|      | 開講時間             | 17:50 ~ 19:20                         |
|      | 受講料              | 9,000円(税込)                            |
| 申込締切 | 10月14日(木)*当日消印有効 |                                       |

|      |                  |                                       |
|------|------------------|---------------------------------------|
| 2    | テーマ              | 親鸞思想入門 -「正信偈」を読む-                     |
|      | 担当講師             | 本学助教授 木越 康                            |
|      | 開講日              | 10月20日・27日、11月10日・17日、12月1日・8日(いずれも水) |
|      | 開講時間             | 17:50 ~ 19:20                         |
|      | 受講料              | 6,000円(税込)                            |
| 申込締切 | 10月13日(水)*当日消印有効 |                                       |

### ●●●● 紫明講座 ●●●●

|     |                         |                                       |
|-----|-------------------------|---------------------------------------|
| 1   | テーマ                     | 大谷大学・龍谷大学連携講座 蓮如と山科本願寺 -最新の研究成果に学ぶ-   |
|     | 担当講師                    | 本学教授 草野 顕之ほか                          |
|     | 開講日                     | 10月2日・16日・30日、11月13日・20日、12月4日(いずれも土) |
|     | 開講時間                    | 10:45 ~ 12:15                         |
|     | 受講料                     | 9,000円(税込) REC個人会員7,500円(テキスト代、税込)    |
| 申込先 | REC京都(TEL:075-645-7892) |                                       |

|      |                  |                                |
|------|------------------|--------------------------------|
| 2    | テーマ              | 「しがねえ恋のなさげがあだ」 -浄瑠璃名文集 その-     |
|      | 担当講師             | 本学教授 沙加戸 弘                     |
|      | 開講日              | 10月27日、11月10日・17日、12月1日(いずれも水) |
|      | 開講時間             | 17:50 ~ 19:20                  |
|      | 受講料              | 6,000円(税込)                     |
| 申込締切 | 10月20日(水)*当日消印有効 |                                |

|      |                  |                            |
|------|------------------|----------------------------|
| 3    | テーマ              | 伝説と民謡で旅するドイツ -山の精霊からバツハマで- |
|      | 担当講師             | 本学専任講師 吉田 孝夫               |
|      | 開講日              | 12月3日・10日・17日(いずれも金)       |
|      | 開講時間             | 17:50 ~ 19:20              |
|      | 受講料              | 3,000円(税込)                 |
| 申込締切 | 11月26日(金)*当日消印有効 |                            |

|      |                  |                        |
|------|------------------|------------------------|
| 4    | テーマ              | 唯識思想へのいざない -撰大乘論に基づいて- |
|      | 担当講師             | 本学教授 小谷 信千代            |
|      | 開講日              | 12月2日・9日・16日(いずれも木)    |
|      | 開講時間             | 17:50 ~ 19:20          |
|      | 受講料              | 3,000円(税込)             |
| 申込締切 | 11月25日(木)*当日消印有効 |                        |

### ●●●● 博物館セミナー ●●●●

|      |                 |   |
|------|-----------------|---|
| 1    | テーマ             | はじめて学ぶ古文書読み解き講座                             |
|      | 担当講師            | 本学専任講師・博物館学芸員 平野 寿則                         |
|      | 開講日             | 9月25日、10月2日・16日・30日、11月6日・27日、12月11日(いずれも土) |
|      | 開講時間            | 10:00 ~ 11:00 11:10 ~ 12:10 10/16・30は のみ    |
|      | 受講料             | 12,000円(税込)                                 |
| 申込締切 | 9月17日(金)*当日消印有効 |   |

【申し込み方法】

各講座とも、ハガキ、FAX、Eメールにて、講座名、氏名(フリガナ)、年齢、性別、職業、郵便番号、住所、電話番号を明記のうえ、下記までお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 TEL:075-411-8161(直通) FAX:075-411-8162

E mail opensemi@sec.otani.ac.jp

\*講座名は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

## 大谷大学・大谷大学短期大学部 入試制度一覧

### 大谷大学

- ・指定校制推薦入学
- ・公募制推薦入試(A方式=小論文型、B方式=1教科型)
- ・一般入試[第1期](3教科型、2教科型)
- ・一般入試[第2期]
- ・一般入試[大学入試センター試験利用入試]
- ・第3学年推薦編入学
- ・第3学年一般編入試

### 大谷大学短期大学部

- ・指定校制推薦入学
- ・公募制推薦入試(A方式=小論文型、B方式=1教科型)
- ・一般入試[第1期]
- ・一般入試[第2期]

### 大谷大学大学院

- ・秋季試験 【修士課程】
- ・外国人留学生入試【博士後期課程、修士課程】
- ・社会人入試 【修士課程】
- ・春季試験 【博士後期課程、修士課程】

入学試験に関するお問い合わせは、

大谷大学入学センター 075 411 8114 (直通)

E-mail: nyushi-c@sec.otani.ac.jp



大和ゼミ (1999年度~2002年度卒業生) 同期会 (2004.3.6)

# 同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

## 恩師を囲んで



河内昭圓先生最終講義及び謝恩会 (2004.3.13)



大山喬平先生最終講義ならびに謝恩会 (2004.3.8)

大山先生のご退職に際し、卒業生と日本文化コースの院生が集まりました。名誉教授の名畑先生と大桑先生をお迎えし、楽しい会になりました。先生から受けた学恩に感謝!しています。

荒井とみよ先生ゼミ文学部卒業生同期会・送別謝恩会

(2004.3.27)

常に学生を大切にしてくれた荒井先生。卒業生の参加も多く、大変華やかで感動的な送別謝恩会となりました。退官後も荒井先生の益々のご活躍を念じ上げます。



平成13年卒業 木村ゼミ同期会 (2004.5.2~3)

奈良県は室生村にて、室生寺・龍穴神社などの名所を観光し、夕食には地元の山菜料理を堪能いたしました。幾年たとうとも、学生時代の仲間というのは本当によいものです。



雲の系  
(昭和43年入学雲井クラス)  
(2004.3.25)

雲井先生の米寿を祝し、23名が集いました。4名の物故会員を偲んで追弔会のうち、会場を移した懇親会は、約20年ぶりの参加者もあり、それぞれの人生を感じつつおおいに盛会、次回を誓って散会しました。



大谷大学専門部（昭和21年9月卒）同期会（2004.5.12）  
昭和19年入学、21年9月卒。在学中は文字通り激動の時代。思い出の戦中、戦後を語り、60年昔に帰りました。



大谷大学昭和55年度三寮（育英・貫練・下鴨）合同同期会  
（2004.5.8）

25年ぶりに三寮が集まって金沢での同窓会でした。ある人が寮歌について、あれは狂う蝶ではなく狂うてふ、涙はなんとご指摘くださいました。加賀の夜を感動に包まれた再会でした。

第18回「谷大一八会」（2004.5.17～18）  
5月17、18日と18回目の会合をルビノ堀川で。14名が昔のばんカラに戻り飲み歌い語らった。翌日母校キャンパスに立ち寄り「これがあの大学？」と驚きの声。「60年経つとこんなにも」と昔日を回想したことでした。



昭和20年入学の有志の会（洗心会）  
（2004.5.18～20）

昭和20年谷大入学の有志の会「洗心会」は、今年は20回目の同窓会で、山陰地方を5月18日より20日まで2泊3日の集いで旧交を温めた。身の衰えゆく昨今なれど1年1度の交遊は感無量。（鳥取県燕趙園にて）



道交会（2004.5.22）

大谷会長をはじめとして、14名の参加がありました。今回は、新部長にOBの加来先生を迎え、おおいに盛り上がりました。



大谷大学予科一八会 (2004.6.3~4)

平成16年6月3日、大津別院にて物故者の追弔会の後、旅亭紅葉にて懇親会をもったが、互いに80歳にならんとする年齢になり、亡くなった方も多く、また病氣療養中などにて、欠席の方もあったが、一応夫婦同伴を含めて19名の出席を得て、盛大に旧懇を温めることができた。



第14期 自灯学寮同期会 (2004.5.22~23)

第14期自灯学寮同期会は、同期会 倫理規定管理委員会により、第1級有害同期会に指定されました、とさ。



大谷大学知真学寮第6期生同期会 (2004.6.19)

久しぶりに再会でき、楽しいひとときを過ごすことができました。一人づつ、卒業後の経歴を発表しましたが、それぞれが自分自身を見つめてきた十余年だったようです。今回欠席だった人にも、次回は是非会いたいです。



野村先生喜寿のお祝い会 (2004.6.19)

学生の話や近況報告などを話し、野村先生を囲んで和やかな楽しい時間を過ごすことができました。それぞれ目標に向かって頑張っている姿が印象的だったこの会は、素敵なお祝い会兼同窓会となったのでした。



第28期大谷大学バレーボール部OB・OG会 (2004.6.20)

今回は現役諸君の勢いに圧倒されっ放しの賑やかな一日になりました。最近はお子様連れの会員の方が多く、対抗戦の体育館はお遊戯室のようです。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

| 開催日          | 会 合 名                           |
|--------------|---------------------------------|
| 2004.3.5(金)  | 知真学寮12期生同期会                     |
| 2004.3.6(土)  | 平成13年卒 神戸先生ゼミ同期会                |
| 2004.3.6(土)  | 大和ゼミ(1999年度~2002年度卒業生)懇談会       |
| 2004.3.8(月)  | 大山喬平先生最終講義ならびに謝恩会               |
| 2004.3.13(土) | 河内昭昭教授最終講義及び謝恩会                 |
| 2004.3.25(木) | 雲の糸(S43年入学雲井クラス)                |
| 2004.3.27(土) | 荒井とみよ先生ゼミ文学部卒業生同期会・送別謝恩会        |
| 2004.4.18(日) | 2000年卒業幼児教育科Bクラス同期会             |
| 2004.5.2(日)  | 平成13年卒業 木村ゼミ同期会                 |
| 2004.5.8(土)  | 大谷大学昭和55年度三寮(育英・貫練・下鴨)合同同期会     |
| 2004.5.12(水) | 大谷大学専門部(昭和21年9月卒)同期会            |
| 2004.5.17(月) | 第18回「谷大一八会」                     |
| 2004.5.18(火) | 昭和20年入学の有志の会(洗心会)               |
| 2004.5.22(土) | 第14期 自灯学寮同期会                    |
| 2004.5.22(土) | 道交会                             |
| 2004.5.29(土) | 第28回浄眼洞(山田亮賢先生門下生の会)            |
| 2004.6.3(木)  | 大谷大学予科一八会                       |
| 2004.6.17(木) | 第2回大谷大学専門部昭和24年卒業同期会            |
| 2004.6.19(土) | 自灯学寮(第17期)同期会                   |
| 2004.6.19(土) | 野村先生喜寿のお祝い会                     |
| 2004.6.19(土) | 大谷大学知真学寮第6期生同期会                 |
| 2004.6.20(日) | 第28期大谷大学バレーボール部OB・OG会           |
| 2004.6.26(土) | 書道部OB会                          |
| 2004.6.27(日) | ソフトテニス部OB会                      |
| 2004.7.3(土)  | 大谷大学バスケットボール部OB・OG会             |
| 2004.7.4(日)  | 旧山岳部員の会('95・'96年度入部員)           |
| 2004.7.8(木)  | 大谷大学1958年度学友会(1962年卒業生)         |
| 2004.7.14(水) | 曉鐘十四会                           |
| 2004.7.19(月) | 硬式野球部OB会                        |
| 2004.7.30(金) | 昭和34年度谷大フランス語クラス同期会 岩見先生の喜寿を祝う会 |

第2回大谷大学専門部昭和24年卒業同期会(2004.6.17~18)

昨年54年ぶりで京都につどい、本年は物故者9、病氣他10で残った6名が金沢別院で追悼会をつとめ、連師の金沢御堂を訪ね、粟津温泉「法師」で盛り上がった。やはり、同級生は楽しい。来年は滋賀の湖北で行う予定。



昭和34年度谷大フランス語クラス同期会  
岩見先生の喜寿を祝う会(2004.7.30)

日時・会場:2004年7月30日 16時追用会・講堂、16時30分響流館・博物館見学、18時懇親会・下京区京藤にて、岩見先生を囲んで9名の同期生が岩見先生の喜寿をお祝いした。



書道部OB会(2004.6.26)

6月19日~20日の書道部学外展(於:東本願寺涉成園)に卒業生の作品を8点出展し、6月26日にその打ち上げコンパも兼ねて書道部同窓会を開催しました。在学生も含めて30余名の参加があり、楽しい会となりました。



大谷大学1958年度学友会(1962年卒業生)(2004.7.8~9)

7年ぶりに3回目の学友会を三河の地で開催。この日を楽しみにしていた面々が遠方より集う。話に花が咲き、仲間の琵琶やギター演奏もあり、時間の過ぎるのを忘れた再会でした。



曉鐘十四会(2004.7.14~15)

昭和14年に谷大の門をくぐった縁を大切に、昭和57年8月以来とうとう23年。当会の区切りに相応しく、猛暑の京都「祇園祭宵山と鴨川納涼床」を実施。今、生かされている有難さを体感いたしました。

# 通信

## 海外開教使への舞台

吉井 英 貴

(平成八年文学部真宗学科・真宗学分野卒業)

天気は快晴、雲ひとつない青空と乾いた風が流れる昼下がり。ここは、日本から約八千五百km離れたアメリカ合衆国・カリフォルニア州フレズノ市にある本願寺フレズノ別院。浄土真宗本願寺派・北米開教区 開教使（海外布教僧侶）として、この別院に着任し五年を迎えようとしていると共に、大学を卒業し八年という時間が流れようとしていることに気がかされる。

思えば中学・高校、そしてもちろん大学時代とあれほど英語が嫌いだっただにもかかわらず、別院で日々行われる法事や葬式、そして結婚式から毎週の日曜礼拝・各種ミーティング、更には現地小学生や大学生の団体参拝の方々に、人には自慢できない英語ではあるが説明や法話をさ



せていただいている不思議さと、そんな生活を今、いただいている御縁を実感する。

実家が浄土真宗の寺院、しかも父は私が生まれる以前にハワイの開教使であつたという環境もあつたのかも知れないが、今から思えば大学で過ごした時間の中で自然と持ちだした「自己とは何か」という問いかけと共に、「人生をどのように過ごすのか」という課題の答えが、海外開教使という現在の姿であるように感じるのである。幸いにしていただいた命、そして幸いにしていただいた人生という道、どのような形であれ、どのような場所であれ、精一杯輝かせてあげたい。そしてたとえ失敗しても成功しても、そんな命と人生、そして御縁をいただいたことに感謝できる人生でありたいと思った結果だったのかも知れない。

天気は快晴、雲ひとつない青空と乾いた風が流れる昼下がり。日本から遠く離れたカリフォルニアの大地の上で、開教使の証である純白の衣を身にまとい、私にとつての「人生をどのように過ごすのか」という課題の答えと、海外開教使としての舞台が今日も進行中である。

(浄土真宗本願寺派北米開教区開教使)

**結婚**  
おめでとう!!!  
幸せなご家庭を築かれることを  
念じ申しあげます。  
( )内は最終卒業・修了年 敬称略  
同窓会本部管理分

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 柿木 逸明 (H13文) | 中野 和栄 (H14文) |
| 後藤 行仁 (H10修) | 稲盛 貴子        |
| 辻 真司         | 堀内沙耶花 (H13文) |
| 平岡 涼 (H12文)  | 岡本 佳奈 (H11文) |
| 細川 泰秀        | 河和田彰子 (H15修) |
| 佐竹 隆         | 村上 晴美 (H8文)  |
| 藤原 研也        | 上田 馨子 (H7短)  |
| 鷲尾 祐照 (H10文) | 奥村 千恵        |
| 藤並 慈 (H8文)   | 松 加奈子        |
| 芝野 貴志        | 原 桂子 (H4短)   |
| 西居 直史        | 浅川 絹恵 (H7短)  |
| 窪田 純 (H13修)  | 宮原 美幸 (H12文) |
| 上田 賢 (H12文)  | 田口 睦美 (H10短) |
| 大野 和祝 (H10文) | 中村真紀子 (H10文) |
| 太田 智巳        | 増田 由香 (H12文) |
| 村山 聡         | 宇佐美有紀 (H7文)  |
| 一柳 翼         | 村田 匡美 (H9短)  |

### 敬 弔

( )生前のご功勞を偲び、  
謹んで哀悼の意を表します。  
( )内は最終卒業・修了年 敬称略  
同窓会本部管理分

- |       |           |           |
|-------|-----------|-----------|
| 比留間典子 | 短期 (S47)  | H13・2・2   |
| 佐々木士郎 | 文学部 (S29) | H13・7・13  |
| 武田佐世子 | 短期 (H11)  | H15・5・6   |
| 和田 旭亮 | 文学部 (S31) | H15・6・9   |
| 高山 貞親 | 文学部 (S10) | H15・8・16  |
| 沢島 忠雄 | 文学部 (S22) | H15・9・23  |
| 安井 信雅 | 文学部 (S45) | H15・9・30  |
| 近松 淳一 | 文学部 (S16) | H15・11・10 |
| 佐々木智夫 | 文学部 (S25) | H15・11・21 |

# 窓 同

## 谷大に学んで

長 島 美稚子  
(旧姓 寺)

(昭和五十五年文学部仏教学科・仏教学分野卒業)

まだ地下鉄もなく旧校舎だった時代に、私は大谷大学で仏教学を学びました。現在は北陸で内観研修所を営みながら、臨床心理士の資格を有し大学の学生相談も担当しています。大学時代は猶予期間と言われていますが、まさに私の大学生活はそれでした。

本音で人と語り合いたくて、つまり「自分の存在」を確かめたくて谷大に入学しました。学生生活では、人間関係のさまざまな葛藤があり、心を傷つけあいました。知人等は私の短所を指摘しますが、受け入れることが出来ませんでした。私が入る内面に目を向け始めたのは、知人等が郷里に帰ってからです。それは傷つけても、なぜ見守るのかという強い情動を伴った問いからでした。自分を見つ



める方法として「内観」を選びました。その研修を繰り返す中で、私の心は癒されていきました。同時に私自身が面接者となり内観研修をする人々の声を聞きつづけ、慈愛を基盤とした罪悪の自覚は、人の悩みを転換するメカニズムをもっと分かってきました。日々、来談者の話を傾聴することは私にとって本音のつきあいです。短期間だけの関係性ではありませんが濃厚な関係であり、自分を実感し、来談者との繋がりに「生かされている」ことを感じます。

引きこもりの子どもを持つある母親は「無償の愛」とは何なのかと私に質問しました。正直にいうと、その時点ではうまく説明できませんでした。表面上の言葉だけで返答しようとしたからです。その子どもが求めているものは見捨てられないという確証であり、それに基づく信頼感ではないかと思うのです。母親は心の基盤が分からないため子どもも言動に振り回され、子どもは疲れた母親を見て混乱する。そのような図式が多く見受けられます。不十分ではありましたが、私はこの心の基底を大学で学びました。それに携われる仕事ができ幸いです。

(北陸内観研修所 副所長)

### 同窓会福井支部長

藤 兼見氏 (逝去)

同窓会発展のためご尽力賜りました同窓会福井支部長の藤 兼見氏が本年七月十三日に還浄されました。

ここに深甚の謝意を表し、謹んでお悔み申しあげます。

|       |           |      |     |      |
|-------|-----------|------|-----|------|
| 伊藤 義弘 | 文学部 (S31) | H 16 | ・ 8 | ・ 5  |
| 藤本 雅俊 | 文学部 (S32) | H 16 | ・ 7 | ・ 17 |
| 藤 兼見  | 文学部 (S22) | H 16 | ・ 7 | ・ 13 |
| 吉元 英隆 | 文学部 (S24) | H 16 | ・ 7 | ・ 7  |
| 木越 正信 | 文学部 (S48) | H 16 | ・ 6 | ・ 18 |
| 川那辺 恵 | 文学部 (S26) | H 16 | ・ 6 | ・ 16 |
| 天児 晃  | 文学部 (S23) | H 16 | ・ 6 | ・ 10 |
| 溝口 問  | 文学部 (S17) | H 16 | ・ 6 | ・ 22 |
| 浅井 祐芳 | 修士 (S45)  | H 16 | ・ 5 | ・ 18 |
| 坂本 孝暉 | 文学部 (S27) | H 16 | ・ 5 | ・ 11 |
| 藍川 徳成 | 文学部 (S5)  | H 16 | ・ 5 | ・ 10 |
| 黒部 国丸 | 文学部 (S31) | H 16 | ・ 5 | ・ 1  |
| 長尾 亮輝 | 大専門 (S20) | H 16 | ・ 4 | ・ 29 |
| 日野 正遵 | 大専門 (S10) | H 16 | ・ 4 | ・ 23 |
| 梅田 郁雄 | 文学部 (S28) | H 16 | ・ 4 | ・ 20 |
| 今居 至静 | 文学部 (S36) | H 16 | ・ 4 | ・ 17 |
| 實達 立澄 | 文学部 (S19) | H 16 | ・ 4 | ・ 4  |
| 花房 美静 | 大専門 (S12) | H 16 | ・ 3 | ・ 28 |
| 篠原 兼正 | 大専門 (S39) | H 16 | ・ 3 | ・ 17 |
| 青山 康麿 | 大専門 (S6)  | H 16 | ・ 3 | ・ 6  |
| 清水 明正 | 大専門 (S9)  | H 16 | ・ 2 | ・ 20 |
| 大久保信久 | 文学部 (S27) | H 16 | ・ 2 | ・ 13 |
| 千葉 了昭 | 文学部 (S33) | H 16 | ・ 2 | ・ 4  |
| 岡本 秀照 | 大専門 (S13) | H 16 | ・ 1 | ・ 27 |
| 寺西 賢照 | 文学部 (S35) | H 16 | ・ 1 | ・ 6  |
| 炭竈 智雄 | 修士 (S51)  | H 16 | ・ 1 | ・ 6  |

## 二種世間清浄

私たちの生きる場所を世親は『浄土論』に二種世間と表わす。器世間、衆生世間の二種である。「器」とはうつわ、容器である。水を入れ保つところの茶碗、コップのことである。また衆生世間の「衆生」とは生き物、人間のことである。つまり、私たちの生きるあり方は環境（器世間）の中にそれぞれが代替不可能ないのちの営み、主体（衆生）を生きているということである。

それは、自然と人間、社会と人間の関係、ことに自然と人間のつながりが『浄土論』では、水功德、地功德、虚空功德で表わされる。その中、水功德については、

宝華千万種にして 池・流・泉に弥覆せり

微風華葉を動かすに 交錯して光乱転す

と示す。私たちの生活しているところには花があり、水があり、池がある。私は大学で二十五年間学び、そして現在尾州寮、学生二十九名と共に生活している。ときどき賀茂川に散歩に出かけることがある。綺麗な賀茂川の流れ、泳いでいる魚、水鳥たちに出会う。そして彼方には比叡山が見える。その間に樹々家々が立ち並び人びとが生活している。

水は私たちの生活に潤いを与え、大地は堅固さ、支えである。虚空は空の広大さのことである。しかし、私たちの人間生活はそのような広やかさの中にあるながら、よく言われる「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ、兎角に人の世は住みにくい。」（草枕）と。私たちは自然内存在の中にありながら、そこから離脱し自我意識を中心に自立して生きる。あたかも日々が自分の足、自らの足の力によって方向を見定めようとした営みである。

北大路、その一角にある大学、尾州寮を何度も通った。しかし、私の歩み、足の力の底には、掘っても掘っても出遇えない深い支えがある。私の立つ大地には、四トントラックも富士山も蟻も黙って支えている無限の功德の恵みがある。二種世間「清浄」とは、その大地の深みからの根元の呼びかけ、清浄意欲如來の願心に呼び醒まされ歩む道といえる。

大谷大学教授・真宗学 神戸 和麿

表紙絵

## 仏のイメージ「菩提樹」

116.7 × 72.7 cm 一九九五年作

釈尊が入滅されたのは西暦前五世紀後半、その後、西暦一世紀後半までは、人間から覚者「仏陀」となれた釈尊に対して、恐れ多いことから人間の姿としての仏像が造られることはありませんでした。釈尊の生涯の中で四つの重要な出来事を四大事蹟といい、「誕生」「成道」「初転法輪」「涅槃」があげられます。その中でも最も重要な出来事は「成道」であります。六年の苦行の末、一本の菩提樹下に坐し仏陀となられたので、成道の象徴として菩提樹を使うようになりました。このように釈尊を象徴するものとして四大事蹟の順に「蓮」「菩提樹」「法輪」「仏塔」が石に刻んで造られました。この菩提樹は寒さに弱く、霜にあたるとうちどころに枯れてしまいます。日本で菩提樹といつて植えられるのは、中国産のシナノキ科の木で、インド菩提樹とは全く違うものです。インドで菩提樹の念珠として売られているのもホルトノキ科の別の木の種です。インド菩提樹は極めて小さな種で、発芽するのに三カ月以上かかり、寒さに弱く、日本の冬を屋外では越せません。高温と強い日射しと水さえあれば、どんどんと大きく育ちます。ハートの形の美しい葉の菩提樹は神々しく、仏教だけでなく、ヒンドウ教でも崇められています。インドの仏跡に巡拝すると必ず菩提樹があります。それが今日でも釈尊の象徴として崇められています。阿難などゆかりの高弟の象徴として礼拝されています。またそれらの樹にチベットの人々はタルチョといつてマントラ（真言）を刷った旗を張り巡らし、南伝仏教の人々は金箔片を押して、本当に釈尊そのものとして礼拝されているのを見ると、胸を打たれます。

梶中光夏(昭和四十五年文学部卒)

大谷大学非常勤講師  
京都造形芸術大学教授

2004年9月24日発行

発行 大谷大学同窓会本部  
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内  
電話(075)411-8124 FAX(075)411-8157  
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をとますようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづけろ」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。